

## 祝　辞



先人の理念を継承し  
全社員の心を一つにして  
社業の発展と永続に  
一意専心してまいります

### ごあいさつ

戦争と荒廃、高度経済成長、経済危機など波乱に満ちた時代を乗り越え、お陰様で当社は創業100周年を迎える運びとなりました。これまで一方ならぬお引立てを賜り、ご指導ご鞭撻いたしました皆様方に心より厚くお礼申し上げます。

大正2年、北海道の農場開拓工事に参画し、土建業および港湾運送業を創業した塩谷範次は「共に潤い、共に痛みを分かち合い」、すなわち「共存共栄」を理念として事業の礎を築き上げました。初代社長 塩谷宏は「誠実」を旨とし、「英知」を結集して40年間にわたり企業の発展に尽力致しました。兵庫県建設業協会会長在職中に逝去した二代目 塩谷宏朗は、業界浄化の意味も込めて「破邪顯正」を理念とし今日の経営基盤を構築してまいりました。

そうした先人の意志を受け継ぎ、私は「誠意 公平 公明」を理念として新たに「一心一途」を自らの行動指針として掲げました。「一心」とは、毛利元就の言葉とされる「百万一心」、すなわち「国人が皆で力を合わせれば何事も成る」ということから、どんな時にも全社員が心を一つにして会社を盛り立てていこうという意味を込めています。また「一途」とは、創業家に生まれ社業を継承する宿命を背負ってきたわが身を戒め、今後とも本業一筋に打ち込み発展的に次代に引き継いでいく決意を表したもので、本業がダメなら別の道を探せばよいといった浮薄な気持ちではなく、あくまでも本業に徹してさらなる発展を目指しつつ日々の経営に臨んでおります。

創業100年にあたり、塩谷運輸建設の不動の信条である「お客様満足と信頼に生きる」を改めて心に刻むとともに、今一度創業者の「共存共栄」の理念に立ち返って、利益も痛みも社員と分かち合う労使一体型の経営で、皆様方の信頼とご期待に応えてまいります。どうか今後とも倍旧のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

平成24年8月吉日

代表取締役社長 塩谷 宏平



元 文部科学大臣  
渡海 紀三朗

塩谷運輸建設株式会社の栄えある創業100周年を心からお祝い申しあげます。  
大正、昭和、平成にわたる激動の時代のなか、幾多の苦難を乗り越えて社業発展に尽くされた歴代社長のリーダーシップに、そして愛社精神に満ちた社員の皆様の一致団結した努力に、心より敬意を表します。

塩谷運輸建設を中心に物流、建設土木、人材派遣事業等を展開する塩谷グループは、高砂を代表する企業であるとともに、歴代社長は高砂美術協会会長、(社)兵庫県建設業協会会長、高砂商工会議所会頭として、それぞれ地域社会や業界の発展にも大きな貢献をされてきました。

また、私にとりまして3世代にわたる社長さん方は、父の代から大変お世話をなっている間柄でもあります。二代目 宏朗氏は人生の先輩としての御意見番、三代目社長 武彦氏は政治活動の良き理解者でもある兄貴分、そして現社長の宏平氏は私を「オヤジさん」と呼んでくれる可愛い弟分のような存在です。前回の選挙で落選した後、少々弱気になっていた私をまっ先に叱咤激励してくれたのは宏平氏でした。

さて、我が国は、いよいよ本格的な人口減少社会を迎えました。人口の量的減少と急速な少子高齢化が消費需要や労働力供給に大きな構造変化をもたらすことは必然です。また高度情報化の進展は世界を瞬時につなぐネットワークを実現し、国際市場の一体化を迫っています。激しい為替変動もこの影響かもしれません。これらの社会経済構造をめぐる大きな潮流は、あらゆる企業行動に変革を求めていると言えるでしょう。

塩谷グループの次なる100年の門出にも、これまで以上の難しい舵取りが求められます。しかし、北海道に渡り農地開発の難工事を成し遂げた創業のチャレンジ精神と「誠意 公平 公明」の経営理念のもと、宏平社長と社員の皆様が「一心一途」にグループの新世紀を力強く開拓されるものと確信しております。

塩谷運輸建設株式会社の更なる発展を心よりお祈りし、お祝いの言葉をいたします。

## 創業100周年を祝して



旭硝子株式会社  
代表取締役社長  
石村 和彦

このたび、塩谷運輸建設株式会社が創業100周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。貴社と弊社のお取引は、1939年（昭和14年）に旭硝子株式会社伊保工場の発足とともに耐火煉瓦製造を開始して以来70年以上に及んでいます。

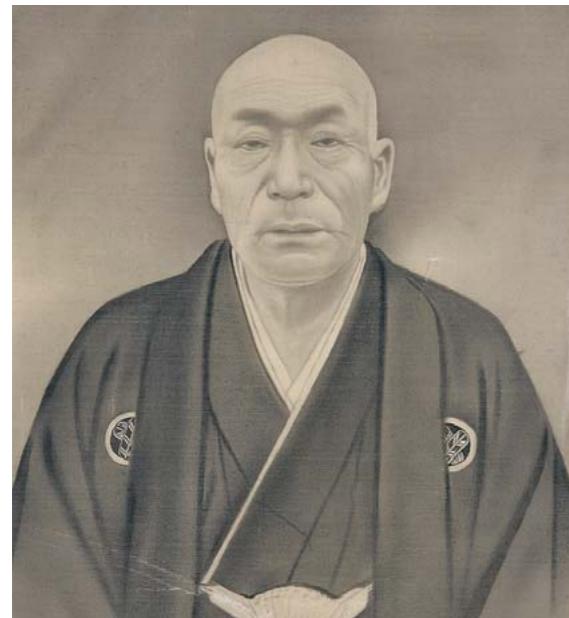
高砂市は縄文時代の古墳があり、播磨国風土記にもその記載があるなど、歴史豊かであるとともに、古来から塩田開発や海運の要衝でした。戦後は播磨臨海工業地帯の中核のひとつとして重化学工業が発展をとげています。こうした環境のなか弊社はこの地に進出して以来、当初は耐火レンガを生産していましたが、日本の高度経済成長とともに事業を拡大し、CRTガラス、高性能耐火レンガ、電子部材、さらに現在では液晶用ガラス基板を生産するマザーワーク場となっています。これもひとえに、貴社のご協力の賜物であると感謝しております。

高度成長期に、貴社には原料受入れ作業から工程構内作業、物流業務、建設土木工事など多方面に活躍いただき、創業者から現在まで地域社会に密着したきめ細かい対応で弊社発展にご尽力いただいております。

日本の経済社会は、今は単に物を作ればいいという訳ではなく、お客様に満足いただけなければ生き残れません。変化のスピードも速く、複雑になっていきます。国際競争は一層激しさを増しています。円高、電力不足など製造業生き残りのため厳しい状態が続いております。しかし貴社がこの一世紀の間幾多の困難を乗り越えてきた実績、社員の一致団結したパワー、経営者の力強いリーダーシップのもと三位一体となって更なる企業発展を図っていくものと確信しております。

新たな二世紀に向け、弊社高砂工場とともに塩谷運輸建設株式会社が、高砂市の中核企業として更に発展されることをこころより祈念しております。

創業100周年にあたり一言お祝いを述べさせていただきました。



## 北海道開拓から身を起こし 事業の礎を築いた

創業者 塩谷 範次

在任期間：大正2年8月～昭和25年10月

経営理念

「共に潤い、共に痛みを分かち合い」

プロフィール

1879(明治12)年、西川家の次男に生まれた範次は、後継者がいなかった塩谷家に養子縁組してその姓を継いだ。

1913(大正2)年、高砂地域一帯の大地主で、関西屈指の財閥であった五代目伊藤長次郎が北海道で農地開発を行うにあたり、請われて本家筋にあたる内藤家とともに渡道し、難工事をやり遂げた。

帰郷後の1933(昭和8)年、土木工事および港湾荷役業「塩谷組」を創立し、事業の礎を築いている。



## 「誠実」をモットーとして 社業を大きく発展させた

初代社長 塩谷 宏

在任期間：昭和25年11月～平成2年9月

経営理念

「誠実」

誠は天に通ずる道

これをこの世に実現するは人の道

プロフィール

1913(大正2)年、父の範次とともに北海道に渡って少年時代を現地で過ごし、帰郷後は回船問屋に勤務したあと家業を継ぐ。戦中戦後は範次とともに伝馬船による港湾荷役業に従事して多難な時代を乗り切り、1950(昭和25)年に株塩谷組を設立し、初代社長に就任した。

美術の才に秀で、高砂美術協会会長として後進の指導にあたるとともに、自らも陶芸の個展を開くなどした。また、コーヒーをこよなく愛し、俳諧をたしなむなど、仕事に厳しい反面、文化人の面目躍如たるものがあった。

公 職

・高砂市文化連盟会長  
・兵庫県印南郡伊保村 村会議員(二期)

主な叙勲・受賞歴

昭和50年 6月 運輸大臣表彰  
昭和51年10月 勳五等瑞宝章



## 業界のリーダーとして 「正義」と「誠」を貫いた

第二代社長 塩谷 宏朗

在任期間：平成2年10月～平成5年9月

経営理念

「破邪顯正」

- 一. 誠をもって事業展開にあたる
- 二. 和をもって事を図る
- 三. 魂をもって志を貫く

プロフィール

1970(昭和45)年、37歳で専務取締役に就任した宏朗は、老境にさしかかりつつあった父の宏を支え、実質的な社長として経営手腕を発揮した。1990(平成2)年、生涯現役を貫いた宏の逝去とともに社長に就任。その一方、兵庫県建設業協会会长として業界の発展に尽力したが、2003(平成15)年、その在任中に惜しまれつつ病没した。

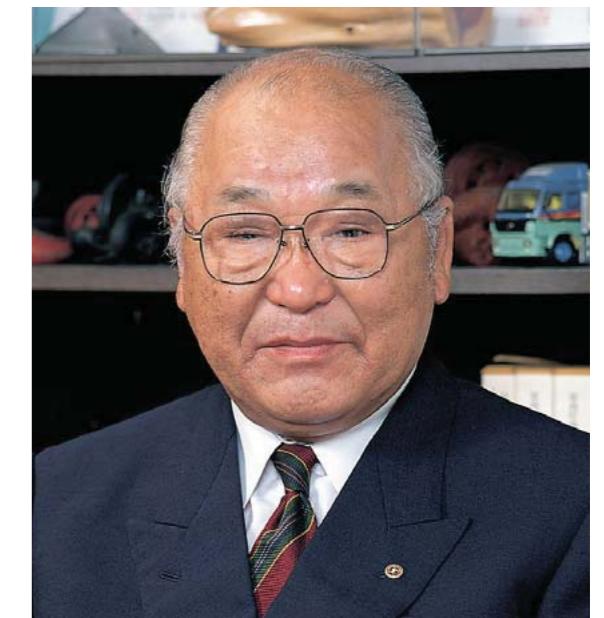
兵庫県下では射撃の名手として知られ、1954(昭和29)年に北海道で開催された国体に兵庫県代表として出場を果たしている。

公 職

・社団法人 兵庫県建設業協会 第15代会長

主な叙勲・受賞歴

平成 4年 6月 建設大臣 表彰  
平成 5年10月 労働大臣 表彰  
平成 7年 5月 黄綬褒章  
平成15年12月 正六位旭日小綬章



## 多事多難な時代に 地元財界の発展に尽力した

第三代社長 塩谷 武彦

在任期間：平成5年10月～平成15年12月

経営理念

「挑戦 創造 誠意」

挑戦 見識を高め根性をもって挑戦する

創造 力量を養い新しい価値を生み出す

誠意 誠意をもって最善を尽くし信頼を築こう

プロフィール

常務取締役として、宏朗専務とともに晩年の宏社長を支えた。意志強固で、この仕事を取ると決めたら決してあきらめず、契約を結ぶまで絶対にひかずにがんばり通して、新規顧客開拓に手腕を発揮した。こうして社業に励む一方、高砂市商工会議所会頭はじめ、さまざまな公職に就いて地元財界の発展にも尽力した。若い頃はかなりのスピード狂で、速い奴がいるときバイクやクルマを駆って、近畿一円どこにでも遠征したというエピソードが残されている。

公 職

・高砂商工会議所 第8代会頭

